

## U-CoRo独案内

vol.12



NEXT21/U-CoRoウィンドウ・エキジビジョン12

上町台地 もしも・いつもの  
“避難所”ウォッチング

2010.9.13 Mon—2011.1.28 Fri

U  
CORO

## ■ 避難所の覚悟 栗田暢之(株式会社レスキューストックヤード代表理事)

「指定避難所」の困難さはこの1枚の写真(左頁)がすべてを物語っている。人口5万人弱のある街でもこの現状だ。大都市・大阪では想像を絶することになる。それだけではない。多くの学校のトイレは和式が主流だ。そこで被害者は生き地獄にあった。乳飲み子を抱える母親も辛かった。容赦なく泣き続ける我が子を抱いて、極寒の屋外であやし続けた。やっとの思いでたどり着いたある老夫婦は、すでに満杯状態の中でパイプ椅子一つに交代で座り、40時間ぶりに届けられた水をやはり交代ではじめて口にした。どうしようもないから、余震でいつ崩れるか分からない自宅に留まった者もいた。そして「指定避難所」しか配布されない食糧をもらいに行ったら、「ここにいる者の分だけだ」とおしりされた。この国の「指定避難所」はシェルターなのか。これではせつかいくのちが教われた者の安堵の空間はおろか、泣くこともできない。しかし、過去の災害を丁寧に訪ねると「避難所」は学校だけではなかった。地域の建設会社が広い敷地と事務所スペースを、お寺が本堂を、ホテルが宴会場を、レストランが食堂を…、それぞれ地域のために開放した。自分の身近にどんな「避難所」があるのか確かめてみよう。そしてもしもの時には、「どうぞお使いください」と言い合える関係を築いておこう。

## 謝辞

この展示は、避難所開設訓練・避難所見学などの取材にご協力くださったみなさまをはじめ、多くのご尽力によって実現しているものです。心からお礼申し上げます。  
協力：生野区役所、浦野純次さん、大阪市危機管理室、大手前高校、からほり倶楽部、北大江まちづくり実行委員会、北大江連合振興財団、源聖寺、高津宮、五条小学校、小西盛夫さん、(財)コリアNGOセンター、三井会、荻原志保さん、中央区役所、天王寺区役所、西代富山クラブ、西宮市、東中川小学校、東中川連合振興財団、富士原町一さん、南高校、山口洋典さん、(財)レスキューストックヤード、ロジモク研究会、その他のおみなさま(50音順)

## U-CoRo独案内 (ゆーころ・ひとりあんない) vol.12

NEXT21/U-CoRo ウィンドウ・エキジビジョン 12  
「上町台地 もしも・いつもの“避難所”ウォッチング」(2010.9.13~2011.1.28)  
大阪市天王寺区清水谷町6-16 NEXT21 1層北U-CoRo

発行日 2010年9月13日  
企画 U-CoRoプロジェクト・ワーキング  
編集 橋本 眞/早川厚志/弘本由香里 デザイン 小倉昌美/北浦千尋  
発行 大阪ガス(株)エネルギー・文化研究所(CEL)  
大阪市中央区平野町4-1-2  
印刷 (株)国際印刷出版研究所

この冊子、企画内容に関するお問合せ先 TEL:06-6205-3518(担当:CEL 弘本)  
※NEXT21の3階以上はE2フロアとなっておりますので、立ち入りはご遠慮ください。

表紙写真：大阪市中央区の大手前高校での避難所見学ワークショップの様子(2010年7月)  
独案内(ひとりあんない)＝まちや物事に不案内な人を助ける携帯便利な冊子のこと  
この冊子は環境に優しい再生紙を使用しています

# ごあいさつ

ふだん遠い存在のように感じていても、いつ身近に起こるかもしれないのが災害です。そして、もしものときに、私たちのいのちと暮らしを支える拠点となるのが、“避難所”です。けれど、避難所はいつも普通に暮らしているまちの中にありながら、なかなか身近に感じにくいものでもあります。もしものときの避難所が、いつも身近な存在になれば、もっと地域の安心についてリアルに考え暮らすようになるのではないのでしょうか。

そんななか、大阪市内・上町台地界隈の数箇所で、地域のみなさんが行政や学校と協働して、避難所の開設訓練や見学会に取り組み始めています。もしものときに混乱することなく、冷静に被災者の救援に地域の力を結集できる避難所運営のあり方について、具体的な方策を検討されている例や、日ごろから小学校をコミュニティの交流の場として活用することで、もしものときのスムーズな避難所運営の基盤づくりとされている例など、地域の特性に応じた多彩な工夫が見られます。

U-CoRo ウィンドウ・エキジビション第12弾となる今回の展示「上町台地 もしも・いつもの“避難所”ウォッチング」では、避難所体験から生まれる減災まちづくりについて、初めの一步から地域への広がりまで、さまざまな段階の取り組みに学びます。貴重な智慧を分かち合う機会となりましたら幸いです。

主催：大阪ガス エネルギー・文化研究所(CEL)  
企画：U-CoRo プロジェクト・ワーキング



新潟県中越地震(2004年)で避難所になった体育館  
(写真提供：(特活)レスキューストックヤード)



※ U-CoRo (ゆーころ)とは、大阪ガス実験集合住宅 NEXT21の1階「上町台地コミュニケーション・ルーム」の愛称です。この窓をインターフェイスに、上町台地の時空につながり、出会いを紡ぎ、暮らしを育む取り組みを少しずつ重ねていくことができたいと願っています。





上町台地“避難所”  
取材ノートより

避難前の安否確認も  
織り込んだ避難所開設訓練

地域総出で実施された  
避難所開設訓練の様子(2009年3月)

### 東中川小学校 (生野区新今里、収容避難所)

昨年、大阪市内での初めての大規模な避難所開設訓練が行われました。準備に半年以上掛けた訓練には、地元連合町会内人口の1割近い、1.1万人もの参加者がありました。教室や体育館など校内の割り振りも町会単位で事前に済ませておくことで、住民が慌てて避難することなく、落ち着いて初期消火や救助活動を行えるようにとの配慮もされるなど、準備期間を通じた“気づき”もたくさんあったようです。



高齢者に付き添い避難  
写真提供：生野区役所

### 五条小学校 (天王寺区小宮町、収容避難所)

近年は超高層マンションも建ちはじめ、人口も増えるなか、地元町会やPTAなどでは新旧住民の出会いと交流に努めています。収容避難所指定を受けた小学校を、地蔵盆や地区フェスティバルなどの出会いと交流の機会の会場にしてきたことで、イザというときの避難所が身近に感じられるようになってきました。今秋には避難所開設訓練も開催される予定で、夏前から地域の人たちによる準備が進められています。



五条小学校の中庭



今秋(二〇一〇年二月)、  
地元で避難所開設訓練を実施予定

天王寺区役所で行われた地元住民による災害图上訓練(2010年6月)



実際に避難してきた時にならざるかを想定しながら校内見学(2010年7月)

地域の人が避難所見学の  
ワークショップを開催

### 大手前高校 (中央区大手前、収容避難所)

この地域では、北大江公園の美化やたそがれコンサートの開催など、まちづくり活動も活発ですが、防災への取り組みも工夫を凝らそうとされています。中大江小学校や市立中央高校、府立大手前高校と収容避難所も多い地域ですが、住民が普段出入りする機会の少ない高校への避難所見学会の開催もその一つ。見学会を通じたさまざまなつながりづくりも防災の大切な一助になりそうです。



地元の人が主体の見学会

### 源聖寺 (天王寺区下寺町)

2008年11月、下寺町の若手僧侶の会「三帰会」が中心となって、「防災マラまちウォーク」が開催されました。下寺町の南から北へ歩きながら、あちこちのお寺でバケツ・リレーや炊き出し体験、お寺を学校に見立てた避難所体験ワークショップなど、たくさんの試みを参加者は実体験できました。普段は入りにくいお寺に伺って、境内の様子を見知ったり、お坊さんとお話したことも防災・減災への一歩になっています。



避難所の生活を模擬体験



防災・減災イベントで  
避難所体験のワークショップ

「防災マラまちウォーク」で「体験！避難所はどうするの？」の  
仮想避難所になった源聖寺(2008年11月) 写真提供：山口洋典さん

